



## 2020年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2019年10月15日



上場取引所 東

上場会社名 株式会社ロゼッタ  
 コード番号 6182 URL <https://www.rozetta.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 五石 順一  
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ管理本部長 (氏名) ジェイコブソン 陽子 TEL 03-6685-9570  
 四半期報告書提出予定日 2019年10月15日 配当支払開始予定日—  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
 四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切り捨て)

### 1. 2020年2月期第2四半期の連結業績（2019年3月1日～2019年8月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年2月期第2四半期	1,935	49.8	309	274.9	310	269.8	168	176.1
2019年2月期第2四半期	1,292	29.9	82	149.6	84	154.7	61	680.3

(注) 包括利益 2020年2月期第2四半期 176百万円 (188.8%) 2019年2月期第2四半期 61百万円 (680.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年2月期第2四半期	16.38	15.89
2019年2月期第2四半期	6.08	5.80

### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2020年2月期第2四半期	2,937		1,372		46.4	
2019年2月期	2,642		1,194		45.1	

(参考) 自己資本 2020年2月期第2四半期 1,362百万円 2019年2月期 1,191百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年2月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年2月期（予想）	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2020年2月期の連結業績予想（2019年3月1日～2020年2月29日）

現在当社では、MT事業が2018年2月期第4四半期より急成長期に入ったことから、経営方針を短期的利益ではなく中長期的成長の最大化に一点集中しております。今期から当面の間、MT事業の売上成長率が落ち着く（目安として対前年比150%）までは、業績予想は固定値として開示しないこととしております。業績予想数値に縛られて費用を加減調整することなく、時々々の機に応じて長期成長の目的のみに最も適合する選択に徹するためです。

なお、2020年2月期の連結業績予想は、最低額のみ開示で、過去最高売上（2,908百万円）以上、過去最高利益（営業利益338百万円）以上としてのみ公表いたします。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：有  
新規 1社（社名）－ 除外 2社（社名） 株式会社インターメディア、スピード翻訳株式会社

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動）」をご覧ください。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（4）四半期連結財務諸表に関する注記事項（四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用）」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年2月期2Q	10,309,460株	2019年2月期	10,296,260株
② 期末自己株式数	2020年2月期2Q	349株	2019年2月期	286株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年2月期2Q	10,296,789株	2019年2月期2Q	10,049,518株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（4）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（決算説明資料の入手方法）

決算補足説明資料はT D n e t で同日開示しております。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローの状況	3
(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	6
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)	7
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(追加情報)	7
(セグメント情報等)	8
(1株当たり情報)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2019年3月1日～2019年8月31日)につきましては、引き続きMT事業において『T-400』の販売が好調でした。これに伴い営業部門から管理部門まで全社的に大幅な増員を行い、今後の急速な業容拡大に向けた組織体制強化に取り組みました。

結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの売上高は1,935,744千円(前年同期比49.8%増)、営業利益は309,778千円(同274.9%増)、経常利益は310,918千円(同269.8%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は168,710千円(同176.1%増)となりました。

セグメント別の業績は、以下のとおりであります。

## ①MT事業

MT事業におきましては、『T-400』の販売が引き続き好調に推移し、売上高は969,790千円(前年同期比197.5%増)となり、今後の急速な業容拡大に向けて営業部門から管理部門まで全体的に販売管理費も大幅に増加した結果、セグメント利益は134,102千円(前年同期比624.0%増)となりました。

## ②HT事業

HT事業におきましては、売上高は740,358千円(前年同期比8.4%減)となりましたが、主に管理系の本社機能の見直しによる販売管理費の合理化により、セグメント利益は183,247千円(前年同期比54.4%増)となりました。

## ③クラウドソーシング事業

クラウドソーシング事業におきましては、売上高は225,595千円(前年同期比42.4%増)となり、管理系の本社機能を削減する等の販売管理費の合理化に取り組んだ結果、セグメント利益は22,514千円(前年同期比93.1%増)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## (資産)

当第2四半期連結会計期間末における流動資産は1,470,230千円となり、前連結会計年度末に比べ146,972千円増加いたしました。これは主に現金及び預金が38,326千円増加、受取手形及び売掛金が52,683千円増加したことによるものであります。固定資産は前連結会計年度末に比べ147,946千円増加して1,467,538千円となりました。これは有形固定資産が62,183千円増加、無形固定資産が90,516千円増加したことによるものであります。

## (負債)

当第2四半期連結会計期間末における流動負債は1,351,394千円となり、前連結会計年度末に比べ194,881千円増加いたしました。これは主に前受金が248,200千円増加、支払手形及び買掛金が42,714千円減少したことによるものであります。固定負債は、前連結会計年度末に比べ78,037千円減少して214,134千円となりました。これは長期借入金の返済によるものであります。

## (純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は1,372,241千円となり、前連結会計年度末に比べ178,074千円増加いたしました。これは利益剰余金が168,710千円増加したことによるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、889,308千円となり、前連結会計年度末に比べ37,496千円増加しました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは517,158千円の収入(前年同期は348,103千円の収入)となりました。

これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上273,208千円、減価償却費の計上180,206千円、のれん償却額の計上10,631千円、前受金の増加額248,200千円によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは366,551千円の支出(前年同期は241,780千円の支出)となりました。

これは主に、無形固定資産の取得による支出239,739千円等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは113,482千円の支出(前年同期は128,688千円の支出)となりました。

これは主に、長期借入金の返済による支出115,470千円等によるものであります。

(4) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現在当社では、MT事業が2018年2月期第4四半期より急成長期に入ったことから、経営方針を短期的利益ではなく中長期的成長の最大化に一点集中しております。今期から当面の間、MT事業の売上成長率が落ち着く(目安として対前年比150%)までは、業績予想は固定値として開示しないこととしております。業績予想数値に縛られて費用を加減調整することなく、時々々の機に応じて長期成長の目的のみに最も適合する選択に徹するためです。

なお、2020年2月期の連結業績予想は、最低額のみ開示で、過去最高売上(2,908百万円)以上、過去最高利益(営業利益338百万円)以上としてのみ公表いたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (2019年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	853,378	891,705
受取手形及び売掛金	360,515	413,198
たな卸資産	51,237	32,675
その他	66,716	139,216
貸倒引当金	△8,589	△6,565
流動資産合計	1,323,258	1,470,230
固定資産		
有形固定資産	236,489	298,673
無形固定資産		
のれん	89,513	78,882
ソフトウェア	432,361	743,401
ソフトウェア仮勘定	423,287	213,165
その他	468	698
無形固定資産合計	945,631	1,036,148
投資その他の資産	137,471	132,717
固定資産合計	1,319,592	1,467,538
資産合計	2,642,850	2,937,769
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	140,961	98,247
1年内返済予定の長期借入金	231,601	194,168
未払法人税等	111,002	32,259
賞与引当金	26,577	32,595
前受金	440,309	688,509
その他	206,061	305,614
流動負債合計	1,156,513	1,351,394
固定負債		
長期借入金	292,171	214,134
固定負債合計	292,171	214,134
負債合計	1,448,684	1,565,528
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	250,794	251,870
資本剰余金	1,230,983	1,232,058
利益剰余金	△289,839	△121,129
自己株式	△435	△600
株主資本合計	1,191,502	1,362,199
新株予約権	458	89
非支配株主持分	2,206	9,952
純資産合計	1,194,166	1,372,241
負債純資産合計	2,642,850	2,937,769

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
売上高	1,292,496	1,935,744
売上原価	531,319	665,348
売上総利益	761,177	1,270,395
販売費及び一般管理費		
給料手当及び賞与	229,521	314,439
賞与引当金繰入額	17,018	14,288
その他	432,008	631,889
販売費及び一般管理費合計	678,549	960,617
営業利益	82,627	309,778
営業外収益		
受取利息	25	150
受取配当金	10	10
助成金収入	—	1,425
為替差益	238	—
その他	2,914	552
営業外収益合計	3,189	2,138
営業外費用		
支払利息	1,610	863
為替差損	—	133
その他	120	—
営業外費用合計	1,730	997
経常利益	84,086	310,918
特別利益		
保険解約返戻金	11,513	—
新株予約権戻入益	—	369
特別利益合計	11,513	369
特別損失		
固定資産除却損	1,672	38,079
特別損失合計	1,672	38,079
税金等調整前四半期純利益	93,927	273,208
法人税等	32,822	96,752
四半期純利益	61,104	176,456
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	7,746
親会社株主に帰属する四半期純利益	61,104	168,710

(四半期連結包括利益計算書)  
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
四半期純利益	61,104	176,456
四半期包括利益	61,104	176,456
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	61,104	168,710
非支配株主に係る四半期包括利益	—	7,746

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	93,927	273,208
減価償却費	86,491	180,206
のれん償却額	10,631	10,631
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1,775	△799
賞与引当金の増減額 (△は減少)	2,813	6,018
受取利息及び受取配当金	△35	△160
保険解約損益 (△は益)	△11,513	—
固定資産除却損	1,672	38,079
新株予約権戻入益	—	△369
支払利息	1,610	863
前受金の増減額 (△は減少)	108,990	248,200
売上債権の増減額 (△は増加)	18,619	△52,683
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△26,444	18,561
仕入債務の増減額 (△は減少)	10,035	△42,714
その他	37,028	△50,201
小計	335,602	628,841
利息及び配当金の受取額	35	160
利息の支払額	△1,610	△863
法人税等の支払額	△13,926	△110,995
法人税等の還付額	28,002	16
営業活動によるキャッシュ・フロー	348,103	517,158
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△21,200	△125,223
無形固定資産の取得による支出	△262,644	△239,739
貸付けによる支出	—	△3,300
貸付金の回収による収入	163	1,193
定期預金の預入による支出	△638	△600
定期預金の払戻による収入	15,374	—
敷金及び保証金の回収による収入	—	1,118
保険積立金の解約による収入	27,164	—
投資活動によるキャッシュ・フロー	△241,780	△366,551
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の返済による支出	△14,075	—
長期借入金の返済による支出	△133,195	△115,470
新株予約権の行使による株式の発行による収入	18,582	2,151
自己株式の取得による支出	—	△164
財務活動によるキャッシュ・フロー	△128,688	△113,482
現金及び現金同等物に係る換算差額	△259	372
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△22,623	37,496
現金及び現金同等物の期首残高	955,840	851,811
現金及び現金同等物の四半期末残高	933,216	889,308



(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

第1四半期連結会計期間において、当社の連結子会社である株式会社グローヴァによる株式会社インターメディアの吸収合併及び、株式会社エニドアによるスピード翻訳株式会社の吸収合併を行いました。これにより株式会社インターメディア、スピード翻訳株式会社が消滅したため、第1四半期連結会計期間より連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	MT事業	HT事業	クラウド ソーシング 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	326,014	808,021	158,461	1,292,496	—	1,292,496
セグメント間 の内部売上高又は 振替高	1,200	109,864	114,808	225,873	△225,873	—
計	327,214	917,885	273,270	1,518,369	△225,873	1,292,496
セグメント利益	18,521	118,675	11,660	148,857	△66,229	82,627

(注) 1. セグメント利益の調整額△66,229千円には、セグメント間取引消去、報告セグメントに帰属しないのれんの償却額、及び全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	MT事業	HT事業	クラウド ソーシング 事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	969,790	740,358	225,595	1,935,744	—	1,935,744
セグメント間 の内部売上高又は 振替高	40,530	4,181	84,126	128,838	△128,838	—
計	1,010,321	744,539	309,721	2,064,583	△128,838	1,935,744
セグメント利益	134,102	183,247	22,514	339,864	△30,086	309,778

(注) 1. セグメント利益の調整額△30,086千円には、セグメント間取引消去、及び全社費用が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない親会社本社の管理部門に係る費用等であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、GLOZE事業部を株式会社グローヴァーに承継させる会社分割を行っており、これに伴い前連結会計年度より従来の「GLOZE事業」、「翻訳・通訳事業」、「企業研修事業」を「HT事業」に統合し、「MT事業」「HT事業」「クラウドソーシング事業」の3つを報告セグメントとしております。

従来のGLOZE事業では、MT（機械翻訳）技術とHT（人間翻訳）との組み合わせによる、品質の標準化、コストダウン、納期短縮を図る受託翻訳サービスを提供してきました。

しかしながら、前連結会計年度において当社MTの精度が大幅に向上したことにより、現在の当社の経営課題は「完全自動化（MTによるHTの完全な代替）へのラストワンマイル」の段階に移行しており、もはやGLOZE事業とグローヴァーの翻訳事業とを区別する意味が希薄になったことから組織の合理化のために再編するものであります。

なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成しており、「I 前第2四半期連結累計期間（自 2018年3月1日 至 2018年8月31日）」の「1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報」に記載しております。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年3月1日 至 2018年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年3月1日 至 2019年8月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	6.08円	16.38円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	61,104	168,710
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	61,104	168,710
普通株式の期中平均株式数(株)	10,049,518	10,296,789
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	5.80円	15.89円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)	—	—
普通株式増加数(株)	486,851	321,991
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—